

府内の農業委員会委員700人が地区連絡会議(地区連)を拠点に現地活動を推進している。伴走する農業会議の現地推進役が各地の取り組みを毎回紹介する。

「地区連」頑張る

福知山市上夜久野地区(24集落、11営農組合)では、谷口清成推進委員が中心となり「地区営農推進協議会」(※)を活性化。過疎化と高齢化が進み、集落の農区や営農組合が単独では農地保全や営農継続が困難な現状

※地区営農推進協議会(略称「地区推」)＝福知山市内に21組織あり、農業委員会委員と集落の農区長(農業委員会補助員)、営農者などで構成。会長は農地利用最適化推進委員が務める。



上夜久野地区京力農場プラン作成にかかる検討会(2月24日)

会を開催し、プラン原案の説明と検討を行った。その結果、上夜久野全域を一本化した京力農場プランでは、平場は一人担い手と農業法人に農地を集積し、スケールメリットを活かした水稲・小豆等の栽培を、山間部は「個人担い手と集落営農組織が水稲・ソバと農作業受託で農地保全をめざす方向で一致。また、野菜市など多様な販路に対応した少量多品目の野菜栽培や、ブランド産品「万願寺甘とう」の拡大も位置づけた。今後は、上夜久野農地水環境保全協議会会長は藤原進農業委員とも連携し、地区推主体でプ

京力農場プラン一本化で地域農業を再編

を踏まえ、上夜久野全体で京力農場プラン一本化の調整を進めている。後継者不足や不在地主の増加、米価低迷など営農環境が厳しくなる中、各集落や営農組織のエリアで担い手を確保し、機

地域農業の将来像を描く広域プランづくりに向けて農家アンケート実施を決めた。アンケートは、地域の現状を把握し役員で共有することを重視して実施。394戸に配布し2

26戸(57%)から回収した。その結果、後継者不在が過半数(55%)で、5年後の意向では、規模縮小と離農の回答が47%もある実態が判明した。昨年11月のプラン検討会では、アンケート結果

「地区推」として広域営農体制を検討し、各営農組合や担い手農家の機械導入の要望把握に取り組みすることを決定。機械の導入希望を取りまとめた上で、今年2月24日に再度プラン検討

ラン実現に向けた活動を具体化していく。その先頭に立つ谷口委員は、「何か新しいアクションを起こし、元気で楽しい村づくりと営農体制の整備を進めたい」と意欲的だ。

獣害に強く中山間に最適

園部藩が江戸幕府に献上した「朝倉山椒」を南丹市の特産に復活するプロジェクトが2年目を迎える。(公財)園部町農業公社は、農地中間管理機構から借りた園部町南八丁の休耕地13坪に朝倉山椒の苗木50本を定植。休耕地を山椒で再生するモデル園を設置した。

朝倉山椒は、熊や猿が食べないので獣害に強い。日陰が必要なので中山間地域での栽培に適した。高齢者も取り組みやすい作物だ。

朝倉山椒は、京都の食文化を支える産品の一つとして各地で栽培されている。近年は生産量が減少し、需要に供給が追いつかない状況だった。そこで、南丹市は、一昨年からの復活プロジェクトに取り組み、栽培希望者を募集。特産品として増産と定着をめざして、京丹波町の白樺貴さんを講師に、挿し木、剪定、栽培管理の講習会を開催

現場の理想 農地利用の最適化

▼農業委員会法改正で「農地利用の最適化」が必須業務となり6年経過したが、ある委員会では「最適化の協議・情報交換」が行われず、農地利用最適化推進委員が「何をしても、良いか分からない状態」にある。法の趣旨が、委員の腑に落ちておらず、「農地の番人」として地域に睨みをきかす

このままでは農村が崩壊 守るべき農地 誰がどう守るか

これが仕事だと思いつている。事務局も人材が不足し対応できていない。意識の改革が必要だ。▼農地を守ることが委員の仕事でも、集落の現実には、高齢化や獣害といった「地域計画」を策定しないと、農業振興の施策の対象外にする方向を国は示している。

休耕地に朝倉山椒植えて特産育成



モデル園に朝倉山椒を植栽

園部藩が江戸幕府に献上した「朝倉山椒」を南丹市の特産に復活するプロジェクトが2年目を迎える。(公財)園部町農業公社は、農地中間管理機構から借りた園部町南八丁の休耕地13坪に朝倉山椒の苗木50本を定植。休耕地を山椒で再生するモデル園を設置した。

朝倉山椒は、熊や猿が食べないので獣害に強い。日陰が必要なので中山間地域での栽培に適した。高齢者も取り組みやすい作物だ。

朝倉山椒は、京都の食文化を支える産品の一つとして各地で栽培されている。近年は生産量が減少し、需要に供給が追いつかない状況だった。そこで、南丹市は、一昨年からの復活プロジェクトに取り組み、栽培希望者を募集。特産品として増産と定着をめざして、京丹波町の白樺貴さんを講師に、挿し木、剪定、栽培管理の講習会を開催

京都

京都府支局 京都府農業会議

京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町104-2 府庁西別館内 075-441-3660

休耕地で「祝」栽培

京田辺市・山本農家クラブ 三山木山本の日本酒を商品化

京田辺市の山本農家クラブは、休耕地約20坪で酒造好適米「祝」の栽培に取り組む。6年の歳月をかけて純米大吟醸「佐

「祝」は、「祝」特有のなめらかな甘みと、まるみのある飲み口が特徴で、1本(720g)税込3850円(原酒は税込4400円)。京田辺市ふるさと納税の返礼品として登録され、注目を集めている。第2弾の「祝」は5月初旬に発売する予定だ。

会員で農地利用最適化推進委員の小泉辰夫さん(66)は、「地域の農地を守りながら、若い人と一緒に儲かる農業を模索していきたい」と語っている。

(京田辺市農業委員会)



「佐牙」純米大吟醸(左)と純米大吟醸原酒(右)をPRする小泉委員

建設業から「農業+水産業」に新規参入

建設業から「農業+水産業」に新規参入

砂後建設代表の砂後隆正さん(39)は、社内に農業部門を立ち上げ、アクアボックス(魚の養殖に使

初期投資を抑えるため建設業の強みを活かして、使わなくなった建設資材で施設を整備。山から流れ込む水で鯉を養殖し、魚の糞が養分となった水でレタスなど薬物野菜を無農薬で栽培している。

今年から規模を拡大しホンモロコシやナガエビの養殖にも注力する予定。「新たな特産品づくりに挑戦し、与謝野町の魅力を発信していきたい」と元気に語った。

(与謝野町農業委員会)



砂後建設代表の砂後隆正さん(39)は、社内に農業部門を立ち上げ、アクアボックス(魚の養殖に使

女性委員が つないで発信

南山城村 吉田洋子さん

自然に親しみたい、農に、農業を中心に頑張る。と関わりたいと南山城村 東大阪出身の吉田洋子(37)がいます。

祖父の影響で「農業をした」と思い、5年前に移住。「半農半整体師」として、30坪の農地で水稲と野菜を育てながら、人々にリラックスタイムを提供

する整体師として日々奮闘中。荒廃していく水田や茶畑を再生していきたいと頑張る彼女の姿を見ると、農と関わる人を応援する施策の拡充が本当に必要なと思います。

多様な生き方を受け入れる持続可能な農村社会の実現をめざす農業委員として、「農業を志す移住者が、なかなか農地を借りられない」という問題の解決が不可欠であると提起します。

(南山城村農業委員会 福中陽子委員)



自然に親しみたい、農に、農業を中心に頑張る。と関わりたいと南山城村 東大阪出身の吉田洋子(37)がいます。